

A Cross-Linguistic Exploration into the Semantics of English, Japanese and Mandarin Resultatives

(英語、日本語および中国語における結果構文の意味論に関する 言語横断的研究)

Takeo Suzuki

鈴木武生

要旨

本論では、英語、日本語および中国語の結果構文の意味的特徴について考察する。英語は統語的に結果イベントをエンコードするのに対し、日本語はV-V複合語という形式によって結果イベントをエンコードする。中国語も同様にV-V複合語によって結果構文を表現する。しかし、そうした統語形態的構造にもかかわらず、中国語のV-V複合動詞では、使役交替といった、統語的な結合価が変化する現象がしばしば見られるが、その際にかかる文法的制約は、日本語V-V複合動詞や英語結果構文よりも少ない。

動作主性または使役主性という観点から見れば、英語の AP 結果構文において、使役連鎖における使役側の第一セグメントは Agent/Patient という対立関係を表現している。そのため、使役セグメントを結果セグメントにリンクさせる場合、結果述語内の Theme 項は、動詞の Agent 項ではなく、Patient 項にリンクされなければならない。これに対し、中国語および日本語の V-V 複合動詞は、こうしたリンク規則を無視することが可能である。これらの言語では、状態変化イベントの Theme 項を動詞の Agent 項にリンクさせることができる。これは、これら二つの言語において、結果構文が必ずしも使役イベント構造を持つ必要がない、ということを示唆している。そのため、動作主性の高いイベントでも、Agent 項を状態変化イベントの Theme 項とリンクさせることで、使役連鎖の第二ノードから出発することができる。

使役イベントと結果イベントの間の時間関係に関する意味関係について、英語 AP 結果構文では、二つのサブイベント間に時間的ギャップが介在することに対し、日本語および中国語よりも強い制約がかかる。特に中国語結果構文では、こうした時間的ギャップがかなり自由に許容される。このことは、中国語結果構文が必ずしもその基底イベント構造内に使役関係をエンコードしているわけ

ではない、という本論の主張と相関しているように思われる。

アスペクト構造については、中国語結果構文のイベント構造は、使役連鎖に依存するのではなく、V1 イベントと V2 イベントの間の時間推移連鎖に依存している。このタイプのイベント構造では、状況を使役主として主語位置に立てることができる。この時間推移連鎖は、二つのサブイベントが複合することで構成される。この意味で、もし、複合語のアスペクト情報を指定するのが複合動詞のヘッドである、とするならば、従来の複合語ヘッドの定義は見直されるべきである。

日本語 V-V 複合動詞は、純粋な語彙レベルでの複合語という性質から、英語または中国語には見られない、異なった振る舞いを示す。本論における議論の中で、日本語 V-V 複合語では、V1 が対となる V2 を選択する場合、使役階層条件に従って選択が行われる、という提案を示す。使役概念を統語的に表現できないため、この概念は V1 または V2 の中にエンコードされなければならない。もし、様態 / 方法、および使役の概念が一つの複合語内にエンコードされる場合、様態 / 方法を示す動詞は、動詞の使役階層において語彙使役の動詞よりも高い位置にあるため、様態 / 方法の概念は V1 に、そして使役の概念は V2 にエンコードされなければならない。

また本論では、結果構文に対する二つの相反するアプローチ、すなわち語彙論的アプローチと構文文法的アプローチの間にある境界線を探る試みも行う。特にもっとも重要なテーマの一つは、各語彙コンポーネントが、全体の構造体との関係でどのような解釈を受けるのか、そしてまた、全体の構造体がこうしたコンポーネントにどのような制約を与えるのか、という点に関する意味関係を明らかにすることである。類型論的に異なるこれら三言語の結果構文が持つ文法的特徴を詳しく検証した結果、意味的要素が、さらに大きな、連続体としての全体に統合されると同時に、その全体が、今度は反対に、こうした要素の意味的分布を制約する、というプロセスによって、表現の意味関係が決定されることを提案する。言い換えるならば、文の意味は、コンポーネント同士の間、ならびに全体構造とそのコンポーネントの間で動的に変化する意味的相対性によって決定される。